

平成28年度 部局長マネジメント方針

こうだ しょういち
水道施設部長 甲田 正一



仕事に対する基本姿勢

水道事業の使命は、安心して安全な「命の水」水道水を安定して使用者の皆様にお届けすることです。文化的な都市生活を営む上で、一日も欠かすことのできない事業であり、水道施設部では、水道施設の新設・更新や維持管理などを行い安定供給に努めています。

また、近年多発しています自然大災害等にも強いライフラインの確保を目指して、山間地域の送配水機能と平区配水機能の整備を進め、老朽化した管路の更新、耐震化を行い、水道施設の強化を図ってまいります。

しかし、水道事業を取り巻く環境は、増え続ける老朽施設の更新費用の増大と、また、社会状況、人口の減少や節水器具の普及等により給水収益が減少するなど、経営環境は非常に厳しいものとなってきています。この限られた財源の中で、努力と創意工夫をもって効率的・効果的な事業を行い「安心できる水道」の構築に努めてまいります。

平成27年度の振り返り

重要な課題であります山間地域への水の供給安定性向上を図るため、整備を行っていた日下中区配水池と中石切受水中継ポンプ場の工事が終了し、28年度より2施設の水運用が開始され送配水機能の強化を進めることができました。また、26年度より施工しています五条低区配水池の整備も平成29年度の完成に向けて取り組んでおり、山間地域のより一層の送配水機能強化のために基幹施設の整備に力を入れてまいります。水道管路につきましては、災害に強い管路を目指して計画的に老朽化した水道管の更新を行い、耐震管への整備を行ってまいりました。平成28年度も引き続きライフラインの機能強化を目指して精力的に頑張っております。

平成28年度に取り組む重点課題

水道施設の新設・更新・耐震化は、ライフサイクルコストをいかに低く抑えるかが重要であり、限られた財源の中、水道管路の長寿命化や安全安心な水道施設の構築を効率的な事業で進めてまいります。

1 老朽化水道施設の効率的な更新

- ・水道管路の長寿命化と低コストの配管材料の採用
長寿命形水道管を積極的に採用し、ライフサイクルコストの低減化と、低コストの配管材料を採用し、工事費用の縮減を図ります。
- ・エネルギーの有効活用
大阪広域水道企業団から受水している水圧を利用し、不足する圧力を加圧して山間地域への送水を行い、エネルギーの有効活用で、動力費の節減や温室効果ガスの削減を図ります。
- ・水道施設の耐震化とダウンサイジング
水道施設の更新時に、地震等に強い工法や新技術の採用及び、将来の水需要を見据えた施設のダウンサイジングなど、耐震化の向上や事業費用の節減を図ります。
- ・管路情報システムの有効活用
管路情報システムには配水管情報として、布設年度、口径、管種、工事名、事故履歴等が納められており、集計機能により希望する順位を導き出し、効率・効果的な管路更新を行います。

2 水を安定してお届けするための維持管理

- ・漏水防止対策
漏水を抑制するために、漏水調査の効果的な実施と老朽管や事故履歴がある管の積極的な更新、使用水量検針時による早期発見など、漏水軽減に努め安定給水を図ってまいります。
- ・安全安心な水質の確保
受水槽による給水設備方式については、水質の安全性を確保するために直接給水（直結直圧給水）ができるよう推進します。また、受水槽使用者の皆様には施設の定期的な点検や安全使用の指導・啓発を行います。

3 早期復旧が可能な水道づくり

- ・山間部配水エリアのブロック化

山間部中区系配水エリア（標高：約 30m～70m）において、これまで水走配水場から送水と配水を一本の管路で水運用していたものを、平成 27 年度末で新たに中石切受水中継ポンプ場の完成に伴い、2 系統の送水管路が確立され、中区系エリアとして日下系と五条系に 2 分割することで、より安全な水運用が可能となり、また、災害時など修繕の完了した区域から順次、水の使用ができることで、市民サービスの向上に繋がります。

- ・災害時の相互応援体制の確立

災害時において、国・府・日本水道協会等と密に連携をとり、近隣市等との相互応援協定に基づき、協力体制の確保に努めます。